

人生の

道しるべ

あなたの悩みに答えます

森本あんり (東京女子大学学長)

一九五六年、神奈川県生まれ。プリンストン神学大学院博士課程修了(P.H.D.)。国際基督教大学教授などを経て、二〇一二年四月より現職。著書に「反知性主義」「不寛容論(いすれも新潮選書)」など。

写真 遠藤宏

相談
老いが怖い

三十代半ばの独身女性。老いが怖
ろです。

二十代までは身体の不調も見られ
ず、結婚についてもそれほど真剣に

考えていませんでした。周りの友人
が結婚していても、「私は私。自
由に生きればいい」と割り切ってい
ました。その思いは基本的にいまも
変わっていません。

ただ最近、肌のハリだったり、足

回答

今回はとても難しい相談です。何
せ、肌のハリや足のむくみなど、
「女性の外見上の美しさ」という、
身も蓋もない話だからです。

昨今のことから、見た目の美
しさを云々しただけで「ルッキズ
ム」と批判されてしまうでしょう。
そもそもそういう「美女」の規準な
らんで、商業文化に毒された現代人の
偏見の集大成なのだから、気にする
ほうがおかしい、ということになり
ます。

さらに、相談者は自分では伝統的
な結婚観から自由だと思っっているよ
うだが、男女の性関係を標準とする
異性愛中心主義にとらわれている。

もっと多様な性のあり方に目を向け
るべきだ、などと言われるかもしれ
ません。

というわけで、お行儀のよいリベ
ラルな人生相談の模範回答として
は、さしあたり以下のようになりま
す。

「あなたは、外見的な美の移ろいを
気にしておられますが、そんな心配
は愚かです。ご自分でも気づいてお
られるように、人は見た目だけでは
ありません。あなたの内面的な美し
さを磨いて、一人の独立した人格と
しての魅力を認めてもらえるように
努力しましょう。いくつになっても、
あなたはあなた。その自由なお
姿に惹かれる人は、男性に限らず女
性にもそれ以外にも、きつといるこ

のむくみだったり、以前と比べて明
らかに調子が落ちているように感じ
ます。正直、自分の外見に関しては
それなりに自信がありました。だか
ら多少歳を重ねても、誰かが選んで
くれるだろうと思っていました。

でもこのまま歳をとれば、私の外
見という武器をなくしてしまうので
はないか、と急に不安になってしま
した。もちろん、人は見た目だけで
はないし、私も人と普段接するとき
は常識的だと思います。性格が悪く
見られないように努力しているつも
りです。

ただ、結局のところ、外見は大事
とも思います。老いにどういふう
に向き合うべきでしょうか。

(大阪府、三十代、女性)

と思います」

「では幸運を祈ります」で終わりそ
うな、いわゆる「お祈りメール」です。
でも、そんな回答をもらって、何
の役に立つでしょうか。この方は、
それを十分承知のうえで、それでも
やっぱり「結局のところ外見は大
事」だし、女性は男性に好かれてな
んぼだし、できれば恋愛して愛情に
包まれた人生を送りたい、と思っ
ているのです。それを相談の出発点に
しない限り、その先へは進めないで
しょう。

私は、結婚がすべての人にとって
唯一のゴールだとは思いませんが、
それでも多くの人にとって幸せな人
生の基盤になると思います。男女と
いう組み合わせ以外にも、祝福され

公認されるべき幸せな性関係があることを知っています。それでも大多数の人にとっては男女の異性愛が基本だろうと思います。現代の恋愛事情にコマーシャルなどの刷り込みが多分にあるのは事実だとしても、恋愛感情そのものが社会的に構築されたものだとは思いません。

だから、相談者の悩みには多くの人が共感するはず。私も最初は自分の経験と無関係のように思っていたのですが、よく思い返してみると、私にも経験がありました。ちょうど相談者と同じ三代半頃のこと、平均よりもずっと早く髪の毛が失われていくことに焦りを感じておりました。いまでも何とも思いませんが、当時はこれ

がだんだん変化してゆくことです。きつと相談者が心配しているのも、そのことでしょう。「選ばれる」のはいいとしても、そのなかから自分の好み合う相手を見つけられるかどうか。その可能性がだんだんと小さくなってゆく、という心配です。

あなたはこれまで、「選ばれる」ばかりでした。言い寄られて、そのなかからいちばんいいのを選べよかったです。では、あなたのほうから誰かを選んだことはありますか？ あなたのほうから好きになった相手はいますか？

女性はいつも選ばれる側にいるべきだ、などと思っておられるわけはないでしょう。

恋愛とは、落ちるものです。見栄

もせつせと養毛剤をふりかけていたのです（何の効果もなかったけど）。そのときに「外見など気にするな、中身を充実させろ」と言われても、そりゃそうなんだが、やっぱり外見も気になる、というほかなかったと思います。

相談者は、もともと自分の外見に自信があったため、いつそう今後に不安を覚えているようです。これまでの人生で、実際にそれが「武器」として役立った、という経験もおありなのでしょう。

羨ましい限りですが、だからこそ、歳を重ねてその武器を失ってしまったらどうしよう、と悩み始めたわけです。裏返して言えば、はじめからそんな武器をもっていない人な

も外聞もなく、ともかくあの人と一緒にいたい、と思うことです。どんな武器でも、自分のもてるものを最大限に用いて、何とかして相手にも愛されたい、と必死の努力をします。

そういう出会いがなければ、あなたの願いは結局満たされることがありません。出会うとき、相手は一人の現在の個人です。理想的な男性のスペックはどうか、そんなことは結局どうでもいい。

そう言い切れるような、あなた自身の心を揺さぶる人を見つけてください。そういう出会いがあれば、あなたの魅力はいくつになっても百パーセント発揮されます。では幸運を祈ります。

ら、そこまで悩むことはなかったはずなので、まあこのあたりは「これまでが恵まれすぎていただけ」と無慈悲に切り捨てておきましょう。

恋愛とは、落ちるもの

私が気になるのは、その先です。だから多少は歳を重ねても「誰かを選んでくれるだろう」と思っていた、というところです。

どうやら相談者は、「選んでもらう」「言い寄られる」ことに慣れていません。魅力的な女性は、いくつになってもその年齢なりにやっぱり魅力があるので、ほんとのところ、そこはそんなに心配することはないだろうと思います。

問題は、言い寄ってくる男性の層

投稿要領

日常の相談事や悩みについて、400字詰め原稿用紙1枚程度で、住所、氏名、年齢、職業を記入のうえ（掲載は匿名）、ご送付ください。掲載分には、図書カードを進呈致します。原稿は、内容を損なわない範囲で、一部を修整させていただく場合がございます。原稿は返却できません。掲載分は電子メディアや出版物などで公開する場合がございます。あらかじめご了承ください。

宛先

〒135-8137 東京都江東区豊洲5-6-52 NBF豊洲チャンネルフロント11階
株式会社PHP研究所 Voice編集部 人生相談係
メールでも投稿を受け付けております。

voice@php.co.jp